

## 第 39 回入学式 式辞

今年は桜の開花が早く、早々と散ってしまったらどうしようかと心配していましたが、まるで皆さんの入学を待っていたかのように、今日のこの青空の元、桜山は春爛漫といった風情です。

本日、ご来賓並びに保護者の皆さまのご臨席を賜り、神奈川県立逗葉高等学校 第 39 回入学式を挙行できますことは、私ども職員一同にとって大きな喜びです。

ただ今入学を許可いたしました 276 名の新入生の皆さん、改めてご入学おめでとうございます。そして、逗葉高校へようこそ。

逗葉高校は昭和 53 年の創立以来 38 年間の歴史を持ち、平成 30 年には創立 40 周年を迎える学校です。生徒は自然豊かな環境の中で、のびのびと学習や部活動に取り組んでいます。皆さんも今日からその仲間として、新たな 3 年間の成長の出発点に立ったのです。

そう、高校への入学試験に合格することはゴールではなくスタートです。

そのスタートに当たり、皆さんに 2 つお願いがあります。

1 つ目は、視野を広く持つということです。

私たちは何かを見るとき、眼球の中で、ものを見るための視細胞が最も多く分布する部分に、一番見たいものの像が結ばれるように、無意識に眼球を動かしています。つまり、何かを一生懸命見れば見るほど、周りが見えなくなってしまうようにできているのです。

これは何かを考えたり判断したりするときにも言えることです。こうだと決めつけてしまったり、思い込んでしまったりすると、ほかの考え方や、やり方を受け入れられなくなったり、間違いだと拒絶してしまいがちです。

缶ジュースの缶を横から見た人が長四角だというのと上から見た人が円だというのと、どちらも間違っただけですが、その立ち位置をお互いに変えなければ相手の言っていることを受け入れることは難しいでしょう。

たとえ自分とは違っていても、相手の言っていることに耳を傾け、相手の立っているところからも見てみることで世界は広がり、より真実に近づくことができるのではないのでしょうか。

しかし、先ほど申しましたように、私たちは無意識に視野が狭くなってしまうようになってきています。だからこそ是非、普段から、今、自分の視野は狭くなっていないかと意識するようにしてください。その意識を持つだけでも、確実に皆さんの視野、つまりものの見方や考え方が広がることでしょう。

2つ目は、人と関わる力を伸ばすということです。

私たちは一人ひとりがみな違っていています。育ってきた環境や経験が違い、性格も好みも違います。そして、その時々どんな立場にあるか、どんな気持ちでいるかによって、例えば同じ日の同じ時間に、同じ晴れた青空を見たとしても、感じ方は様々です。

そんな一人ひとりが同じクラスやチームの仲間として協力していくためには、コミュニケーション力を高めていくことが必要です。自分の考えを正しく相手に伝える、相手の立場や考え方を思いやる、もちろん挨拶などのマナーや社会のルールを守るなど、皆さんが「ここには、自分と自分以外の人がいる」という意識を持ちながら、人と関わることで「社会性」というものが育ちます。皆さんが自宅でテレビの通信講座を見るのではなく、学校というところにわざわざ通って高校生活をするということの、大きな意味がここにあります。

人の心は見えません。それは相手にとっても同じことです。人と関わることは時に面倒だったり苦しかったりしますが、人と関わらずにこの社会で生きていくことはできないのです。是非、人と関わることを恐れず、自分や他人を大切に尊重することのできる人になってください。

最後になりますが、保護者の皆さま、改めて、本日は誠におめでとうございます。またお忙しい中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、誠にありがとうございます。

逗葉高校では生徒一人ひとりの主体性と自律性をはぐくむために、「自ら考え判断できる力を伸ばし、豊かな人間関係の中で学べる学校」を目指して、職員一同、誠心誠意、教育活動を展開していく所存でございます。

保護者の皆様並びのご来賓の皆様におかれましても、生徒たちの成長を温かく見守っていただくとともに、本校の教育活動にご理解をいただき、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

以上、本日入学された新入生の皆さんにとって、これから本校で過ごす3年間で実り多く輝かしいものとなることを祈りながら、私の話を終わります。

平成 28 年 4 月 6 日

神奈川県立逗葉高等学校  
校長 大貫 晶子